2019 年度　第７回 JSR 編集委員会　議事録

日　　時：2019 年 10 月 17 日 (木)午前 7:10～8:20
場　　所：パシフィコ横浜会議センター　4 階　418
出席：長谷川和宏（担当理事）、川口善治（委員長）、赤澤 努、今城靖明、大島 寧、
　　鈴木亨暢、髙畑雅彦、高野裕一、竹内大作、二階堂琢也、福岡宗良（以上、11 名）
欠席：長谷 斉　（以上、1 名）
陪　席：　杏林舎：片山氏、鬻間氏、明松氏　事務局　鈴木　（以上、4 名）

報告事項

1　前回 JSR 編集委員会議事録について（資料 1）

一同査収した。

審議事項

1　編集の進捗状況（資料 2）

現在の進行一覧の資料を確認した。川口委員長が、今後発刊する 11 月号（側弯症学会号）と 12 月号（西日本脊椎研究会号）について各担当委員に投稿数を確認した。
側弯症学会担当の赤澤委員が､17 編の投稿があり､14 編をアクセプトしたことを報告した。
西日本脊椎研究会担当の今城委員が、最終掲載は８編と決まり、少なめだったと報告した。

2　審査状況（資料 3、杏林舎より当日資料）

現在の編集分室である尾島氏より提出された審査状況の資料を確認した。
杏林舎明松氏より、新事務局（以下、編集事務局）にもすでに 16 編の投稿があったとの報告がなされた。一同、投稿の詳細を資料で確認した。
川口委員長が、ＤＥ３名に現状５編ずつ程度査読者選定の業務が割り振られていると思うが、査読者選定の状況はどうかと尋ねた。
ＤＥの大島委員が、受理できそうもない内容の論文が投稿された際には、査読者ともやり取りしあって進めていることや、同意書を書かせていてもそれに反するような内容もあったことと報告した。
川口委員長が、明らかに掲載するのが難しい状態で投稿された論文については、ＤＥの判断でリジェクトしても構わないと発言した。
また大島委員が、査読が終了したのち一読した際に少しだけ修正を入れたほうがよいと感じることがあるが、その場合査読者に戻さないと対応できないかと質問し編集事務局の明松氏が、編集事務局に連絡いただければ対応可能であるが、各ＤＥでも対応できるようにマニュアルを作成すると回答した。
ＤＥ高畑委員が、査読を依頼し断られたのは１名のみだったと報告した。査読者は評議員が基本になっているのでＤＥ３名より目上の方がほとんどだが、査読者リストにはいないよ

うな知人や現場を担当している若手のほうが査読依頼がしやすく、査読を回すとしっかり見てもらえるケースも多いと報告した。
長谷川理事が、査読依頼先は評議員のみでなくても構わないが、査読依頼先が集中しないようにだけ気を付けてほしいと依頼した。
ＤＥ鈴木委員が、査読依頼をして承諾を得てから、2 か月近く査読結果を戻していただけない査読者がおり、個人的にも連絡し、またシステムの自動送信メールでも 2 度ほど督促されている状況であるがどうすべきかと提起した。
長谷川理事が、各ＤＥが個別に対応するのは大変なので、査読期限が過ぎたらシステム上で警告、それでも返信のない場合には un-assign する手続きをとる、ただその際には「今回は査読期限を迎えたので別の方に依頼しますが、又次の機会には是非お願い致します。」というような旨のメールが自動で送信されるようにしてほしいと編集事務局に依頼し、承諾された。
ＤＥ鈴木委員が、査読を依頼するメールが自動で依頼先に送られる際、ＤＥ（依頼元）の氏名は表示されるのだろうかと質問し、今城委員が自分に先日届いた JSR 査読依頼にはＤＥの氏名が表示されていたと報告した。
~~ＤＥ~~高野委員が、JSR に投稿された論文の査読は評議員の義務になっているかと尋ね、川口委員長が SSRR に投稿された論文については義務化されているが、JSR についてはそうなっていないと説明した。
ＤＥ鈴木委員が、投稿時の論文の状態が掲載に値せず、査読者からも厳しい結果が返ってきたとき、どうすればよいか悩むと発言し、川口委員長がＪＳＳＲ号（１・２・５・９号）は「アクセプト率 70%」を基本としているのでそうなるように、アクセプトに導けそうなものは再査読にするなどの策を講じていたと説明した。
長谷川理事が、理事会で JSR のＪＳＳＲ特集号への投稿論文の査読義務化を提案すると発言した。
鈴木委員が、評議員については JSR 投稿論文の査読を SSRR と同様に義務化し、それ以外の査読者も広げるべきと提案した。
長谷川理事が、査読者リストの中で JSR や SSRR への投稿者や投稿数の履歴を調査し、これもリストファイルに加えるように依頼し、編集事務局の片山氏が調べてみると回答した。

3　広告の件（資料 4）

現在の編集分室尾島氏より提示された一覧を査収した。
11 巻からは、紙媒体が 3 号抄録集のみとなることから、紙媒体に掲載するための広告集めについては JSR 編集委員会ではなく、学術集会の管轄となったことを確認した。

4　紀行記・会告等の論文以外の記事（読み物の）取り扱いについて

編集事務局の明松氏が、現在の JSR には掲載されている紀行文（アジアトラベリングフェロー関係等）や会告や規約等を、今後 J-STAGE に掲載するかと提起した。会告や紀行記につい

ても J-STAGE 搭載の際には１文献と換算されてしまうので、こういった雑記が多いほど掲載にかかる費用がかさんでしまうことが補足された。
一同検討の結果、会告や規約等は各学会のホームページへ掲載し、J-STAGE へは掲載しない方向で、また紀行文については掲載するが、学会ホームページにも掲載してもらえるように川口委員長から広報委員会に相談することになった。
紀行文については、脊椎インストゥルメンテーション学会号（担当：竹内委員）や東海脊椎研究会号（担当：福岡委員）などでも以前はあったが、なくなったり JSR ではない別の冊子体に掲載したりしているので、基本的には JSSR のアジアトラベリングフェローについてのものであることを確認した。

5　バナー広告の募集について（杏林舎より当日資料）
SSRR 誌で行われているバナー広告の募集を、同様に（web 化後の）JSR 誌でも行うかについて検討した。
一同検討結果、同様に進めていくことになった。趣意書送付先については、学会事務局から従来の広告趣意書送付先リストを編集事務局へ送付する。

その他
1　オンラインジャーナルサイトのデモ画面説明（杏林舎より当日資料）
事務局の靏間氏が、デモ画面を投影して説明した。以下の点について検討等がなされた。

・メディカルオンラインに掲載する、JSR10 巻までのアーカイブスについて、雑誌の名称が３つあるが、バナーは２つでよいか（JSR と日本脊椎脊髄病学会雑誌）。
⇒長谷川理事が「日本脊椎外科学会誌（１９９０年から２０００年）」のほうがなじみ深い会員もいると思われるので、ボタンを３つに分けるか、日本脊椎脊髄病学会雑誌のボタンにカッコ書きで「日本脊椎外科学会誌」の名称を入れてはどうかと提案した。
⇒本体事務局の鈴木が、メディカルオンラインは通常はオープンにはなっていないので、バナーから入り論文を閲覧しようとすると、通常メディカルオンラインを利用する場合と同様に料金を徴収されてしまうと説明した。法人契約している学会には、１つのＩＤとＰWが付与されるので、それをメディカルオンライン閲覧の際に入力をしてもらう必要があり（それにより、自分の学会のバックナンバーはすべて無料で閲覧可能となる）、その説明を追記する必要があるのではないかと提案した。
長谷川理事と川口委員長が、今まで通り自分のＩＤとＰWでメディカルオンラインも閲覧できるようになる（マイページのなかからなら、別のＩＤ・ＰWを入力せずに閲覧可能）にならないかと発言したが、メディカルオンラインのシステムを変更（ＪＳＳＲ会員全員の個人ＩＤ・ＰWをメディカルオンライン上で認証するようなシステムをメディカルオンラインに作らせる）しない限り無理で、それは（無料提供されているシステムゆえに）難しいのではないかと本体事務局鈴木が回答した。

マイページ内のいままでの JSR 閲覧バナー下に、メディカルオンライン指定のＩＤ・（毎年変更される）ＰＷを表示し、アクセスに不自由のないようにしてはどうかと提案した。
そのアクセス方法については、12 月号の『JSR』に同封しつつ、ホームページや編集事務局作成の web の JSR ページにも掲示することになった。
・編集委員会のメンバーを表示するページにＤＥの表示がないことについて⇒追記することになった。
・１論文に１つ表示される目次での図表について
→編集事務局の片山氏が、図表の選定については「図１を自動的に表示」などシステム化することも可能であるが、SSRR では著者が選定していると説明した。一同、JSR での方針を検討した。検討の結果、SSRR と同様に著者に選定させることになった。
・「お知らせ」ページについて
お知らせページには何を掲載するか検討した。
→編集事務局の片山氏が、通常掲載を予定する情報としては、最新号が刊行された際の案内であるが、投稿規程の変更時等にも使えることを説明した。

2　JSR オンライン化の進捗状況
編集事務局の片山氏が、JSR オンライン化の進捗状況について報告した。
順調に進んでおり J-Stage についてもすでに掲載できる状況となっていることや、論文の紙面デザインについても説明した。

3　賞の選定について
川口委員長が、JSSR 号の優秀論文選考の件で、優秀論文の選択期限を１月末日にすると発言し、一同賛同した。審査については、後日川口委員長よりメールにて案内される。

4　次回委員会予定
2020 年 4 月の JSSR 学術集会中（名古屋）を予定

以上